
令和6年度
藍住町ノリ乗りタクシー券事業に関する
アンケート調査結果報告書
<概要版>

令和7年1月

藍住町総務企画課政策推進室

〔本調査結果を読む際の注意〕

- 1 結果数値 (%) は小数点以下第 2 位を四捨五入してあるので、内訳の合計が 100% とならないことがある。
- 2 図表等の一部で選択肢の文言を省略しているものがある。

第1 調査の概要

藍住町ノリ乗りタクシー券事業について、事業の活用状況や意見を把握し、事業内容を検討するための基礎資料を得ることを目的として、次のとおりアンケート調査を実施した。

1 調査対象者及び回収率等

(1) 調査対象者

- ア 事業対象者のうちタクシー券を購入した者 363人
- イ 事業対象者のうちタクシー券を購入していない者 4,732人

(2) 標本数

調査は、上記アに対しては全数調査、上記イに対しては抽出調査とする。

- ア 事業対象者のうちタクシー券を購入した者 363人(全数)
- イ 事業対象者のうちタクシー券を購入していない者 800人(抽出)
 - (ア) 抽出標本数の設定 別表のとおり
 - (イ) 抽出方法 系統抽出法

(3) 調査方法

郵送により、調査票の配付及び回収を行った。

(4) 調査期間

令和6年11月29日から12月20日まで

(5) 調査票

別添1及び別添2のとおり

(6) 有効回収数(率)

- ア 事業対象者のうちタクシー券を購入した者 210人(57.9%)
- イ 事業対象者のうちタクシー券を購入していない者 297人(37.1%)

別表

母集団の大きさ	N	4,732	タクシー券事業対象者のうち、タクシー券未購入者
要求精度	e	0.05	母集団との標本誤差の範囲 0.1~0.05の範囲で任意設定
信頼度	a	0.95	0.90、0.95、0.99
信頼度係数	k	1.96	a=0.90 → k=1.65 a=0.95 → k=1.96 a=0.99 → k=2.58
母比率	p	0.5	0.5で設定
予想回収率	%	45	R3 タクシー券事業アンケート 64.0% R4 タクシー券事業アンケート 54.1% R5 タクシー券事業アンケート（未購入者）45.5%
標本の大きさ	n	355	回収率100%の場合の標本の大きさ $n=N/((e/k)^2 \times (N-1)/p(1-p)+1)$
必要配布数	枚	790	回収率を見込んだ配布数

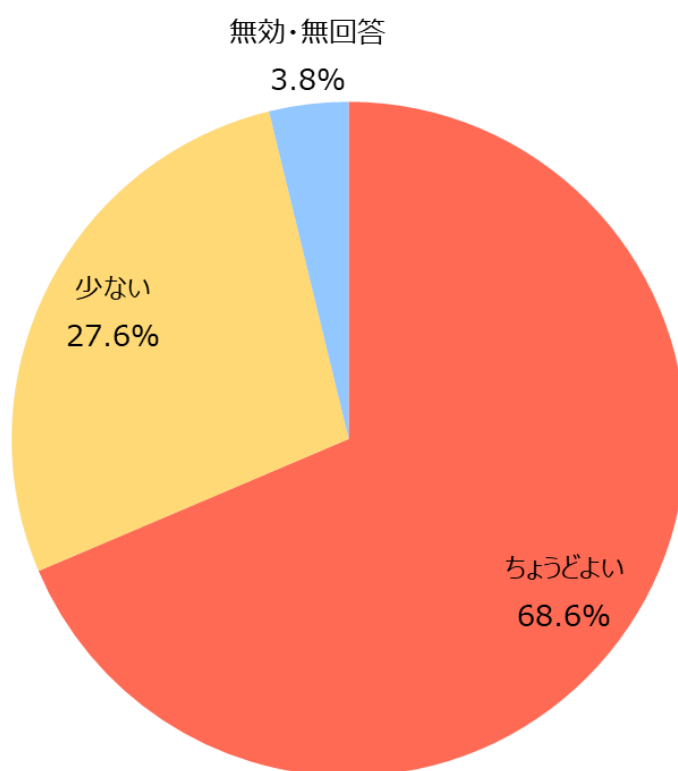
第2 調査結果

1 事業対象者のうちタクシー券を購入した者

問1 「ノリ乗りタクシー券（以下「タクシー券」という。）」の購入できる冊数について

タクシー券を購入できる冊数が「ちょうどよい」と答えた人の割合は68.6%であり、「少ない」と答えた人の割合は27.6%であった。

また、「少ない」と答えた人のうち、84.5%の人が「4～6冊」を購入したいと答えた。



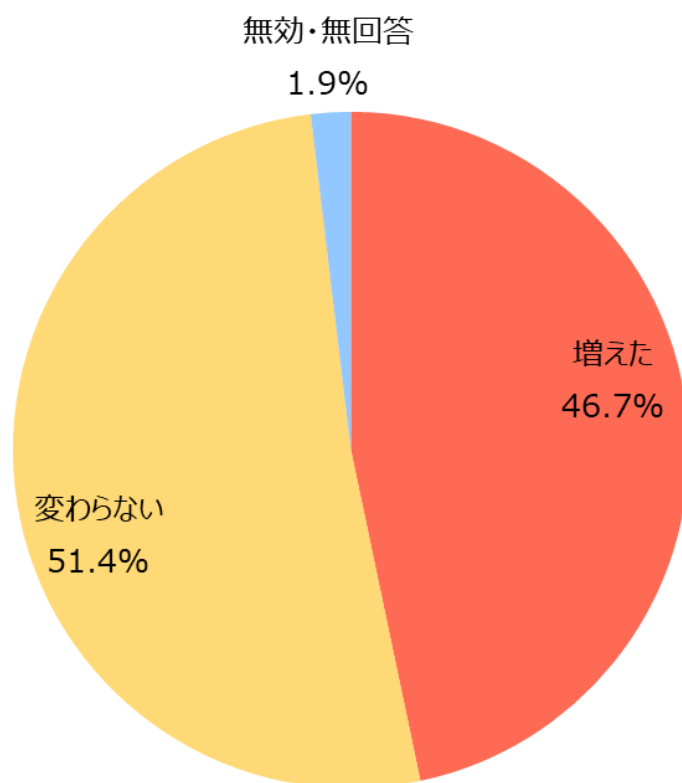
回答	回答数(人)
ちょうどよい	144
少ない	58
無効・無回答	8
計	210



購入したい冊数	回答数(人)
4～6冊	49
10冊	5
無効・無回答	4
計	58

問2 タクシー券の購入による外出機会の頻度について

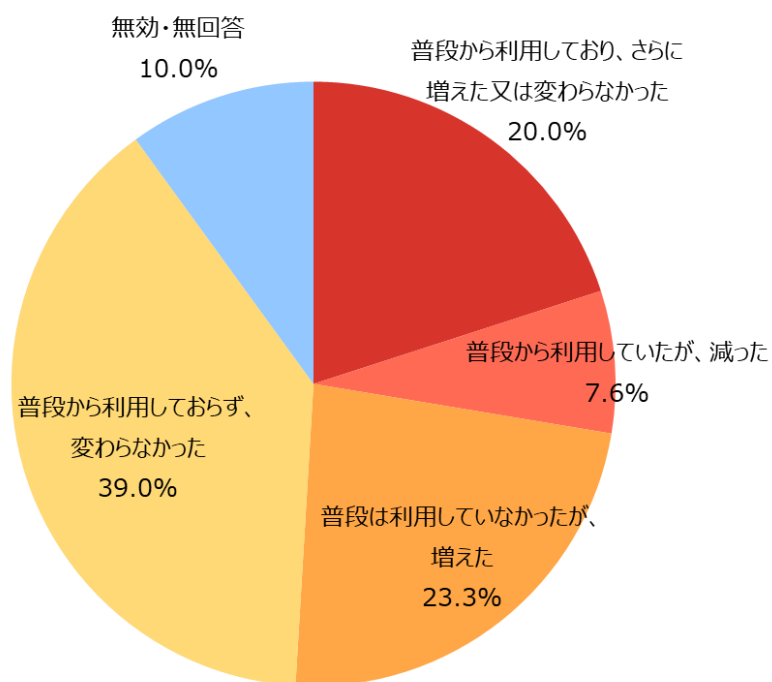
タクシー券の購入によって、外出する機会が「増えた」と答えた人の割合は46.7%であり、「変わらない」と答えた人の割合は51.4%であった。



回 答	回答数 (人)
増えた	98
変わらない	108
無効・無回答	4
計	210

問3 タクシー券の購入によるタクシー以外の公共交通機関を利用する頻度について

普段は公共交通機関を利用していない人^{※1}のうち、「タクシー券の購入によってタクシー以外の公共交通機関の利用が増えた」と答えた人の割合は37.4%であった。一方で、普段から地域公共交通機関を利用している人^{※2}のうち、「タクシー券の購入によってタクシー以外の公共交通機関の利用が減った」と答えた人の割合が27.6%であった。

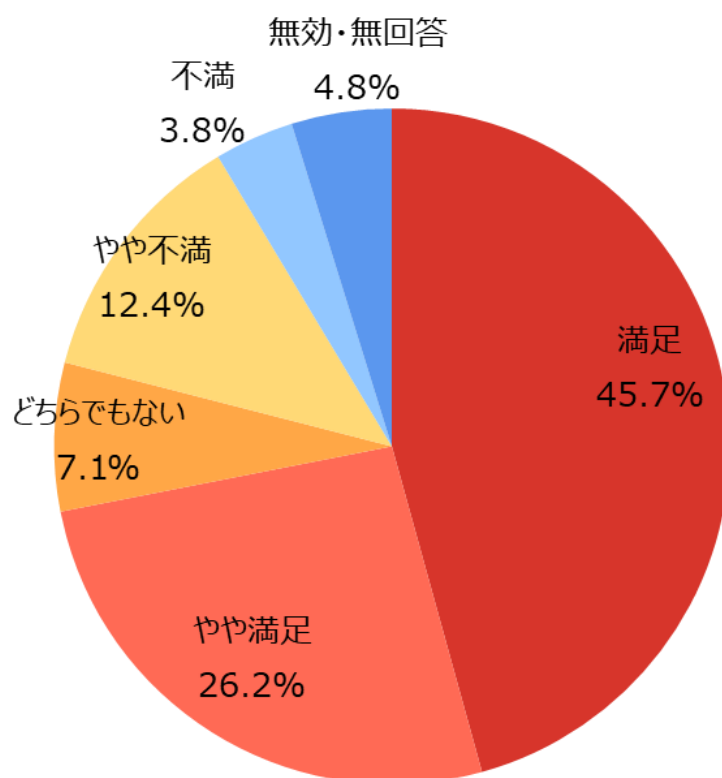


回 答	回答数 (人)
普段から公共交通機関を利用しており、 タクシー券の購入によってさらに増えた又は変わらなかった	42
これまでも地域公共交通機関を利用していたが、 タクシー券の購入によって利用する機会が減った	16
普段は公共交通機関をほとんど利用していなかったが、 タクシー券の購入によって利用機会が増えた	49
普段から公共交通機関をほとんど利用しておらず、 タクシー券を購入しても変わらなかった	82
無効・無回答	21
計	210

-
- ※1 「普段は公共交通機関をほとんど利用していなかったが、タクシー券の購入によって利用機会が増えた」＋「普段から公共交通機関をほとんど利用しておらず、タクシー券を購入しても変わらなかった」の合計。
 - ※2 「普段から公共交通機関を利用しており、タクシー券の購入によって利用機会はさらに増えた又は変わらなかった」＋「これまでも地域公共交通機関を利用していたが、タクシー券の購入によって利用する機会が減った」の合計。

問4 ノリ乗りタクシー券事業の満足度について

ノリ乗りタクシー券事業について、「満足（計）^{※3}」と答えた人の割合は71.9%であった。一方で、「不満（計）^{※4}」と答えた人の割合は16.2%であった。



回 答	回答数（人）
満足	96
やや満足	55
どちらでもない	15
やや不満	26
不満	8
無効・無回答	10
計	210

回答を選択した主な理由

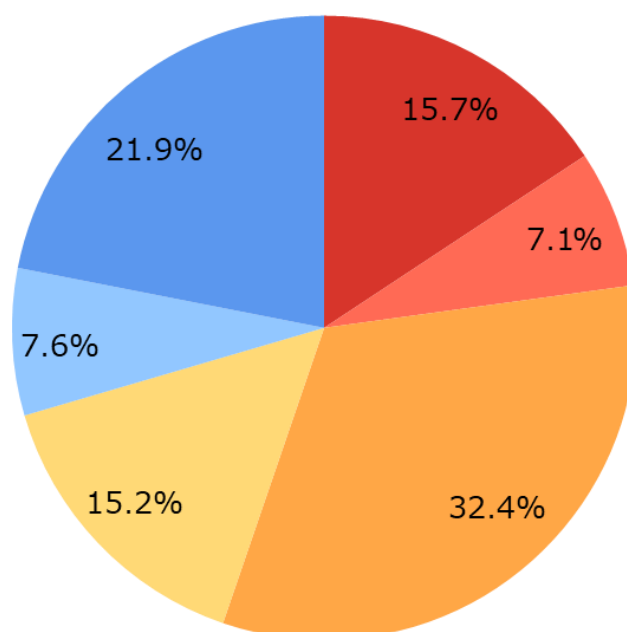
満足（計）※ ³	<ul style="list-style-type: none"> ・通院に使っているが、近くにバス停がなく、とても助かっている。 ・免許証を返納したが、タクシー券で人に頼ることなく生活ができている。 ・外出時のタクシー利用に、抵抗感が少なくなった。 ・これからも事業を続けてほしい。 ・使用期限をなくしてほしい。 ・距離が近いと気兼ねする。
どちらでもない	<ul style="list-style-type: none"> ・町外に行くときに利用する。 ・町外のタクシーも利用できるようにしてほしい。
不満（計）※ ⁴	<ul style="list-style-type: none"> ・町外からの帰りが不便。 ・もっと購入したい。 ・希望の時間にタクシーを呼べないことがある。

※3 「満足」 + 「やや満足」の合計。

※4 「不満」 + 「やや不満」の合計。

問5 路線バスのあり方に対する考え方について

今後の路線バスのあり方に対する考え方は、「路線バスへの町の支援を止め、路線バスに代わる新たな公共交通手段を検討すべきである」(32.4%)、「無効・無回答」(21.9%)、「町外への交通手段として重要であるため、町の負担が増加しても路線バスを維持すべきである」(15.7%)、「路線バスを町民にもっと利用してもらえよう、町や県が取組や啓発活動を推進すべきである」(15.2%)の順で高くなっている。



- 町外への交通手段として重要であるため、町の負担が増加しても路線バスを維持すべきである
- 不便になるとしても路線バスの路線数や便数を減らし、町の負担を軽減すべきである
- 路線バスへの町の支援を止め、路線バスに代わる新たな公共交通手段を検討すべきである
- 路線バスを町民にもっと利用してもらえよう、町や県が取組や啓発活動を推進すべきである
- その他
- 無効・無回答

回 答	回答数 (人)
町外への交通手段として重要であるため、 町の負担が増加しても路線バスを維持すべきである	33
不便になるとしても路線バスの路線数や便数を減らし、 町の負担を軽減すべきである	15
路線バスへの町の支援を止め、 路線バスに代わる新たな公共交通手段を検討すべきである	68
路線バスを町民にもっと利用してもらえよう、 町や県が取組や啓発活動を推進すべきである	32
その他	16
無効・無回答	46
計	210

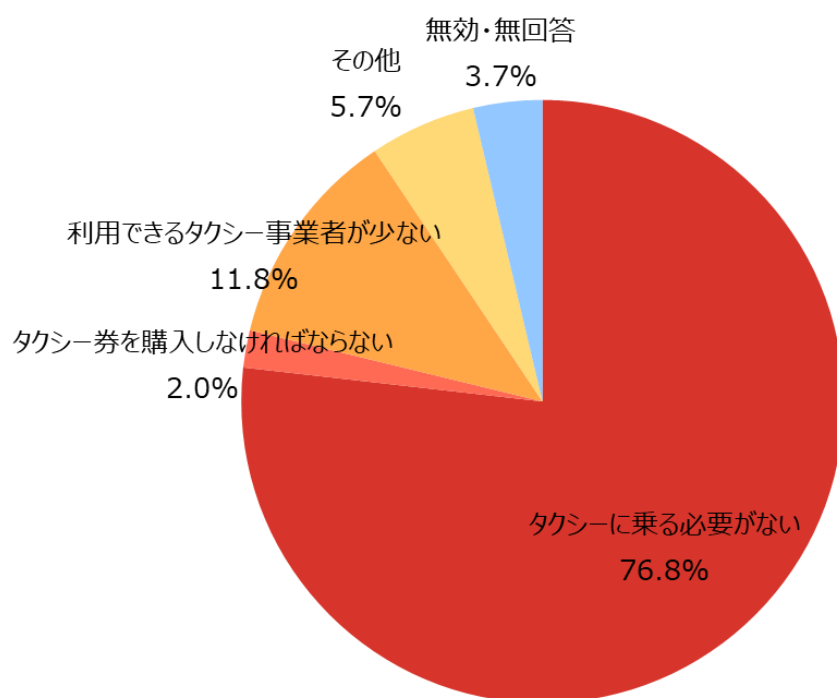
その他の主な内容

- ・乗る人数がいつも満席でないので、小型化バスにしてはどうか。
- ・町営のコミュニティバスを運行する。

2 事業対象者のうちタクシー券を購入していない者

問1 タクシー券を購入していない理由について

タクシー券を購入していない理由は、「タクシーに乗る必要がないから」（76.8%）、「利用できるタクシー業者が少ないから」（11.8%）、「その他」（5.5%）の順で高くなっている。



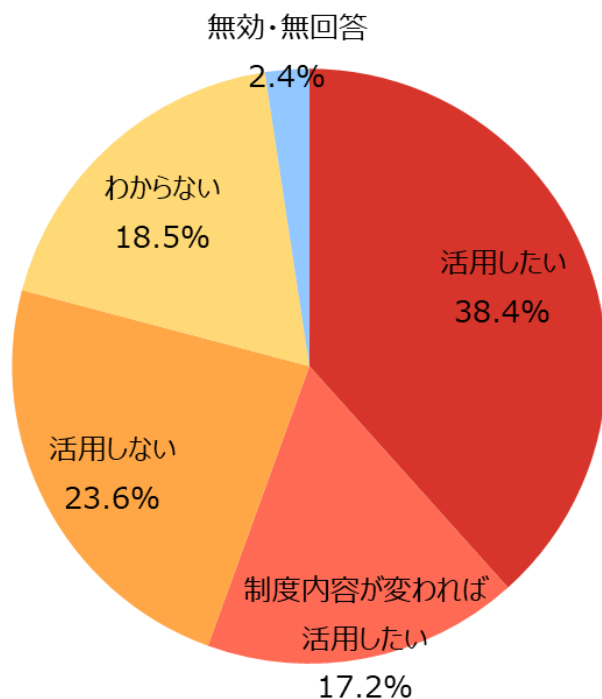
回 答	回答数 (人)
タクシーに乗る必要がないから	228
タクシー券を購入しなければならないから	6
タクシー券を利用できるタクシー業者が少ないから	35
その他	17
無効・無回答	11
計	297

その他の主な理由

- ・一人では移動できないから。
- ・施設に入所しているから。

問2 今後のタクシー券事業の活用希望について

今後、タクシー券事業を活用したいと思うかに対しては、「活用したい」(38.4%)、「活用しない」(23.6%)、「わからない」(18.5%)、「制度内容が変われば活用したい」(17.2%)の順で高くなっている。



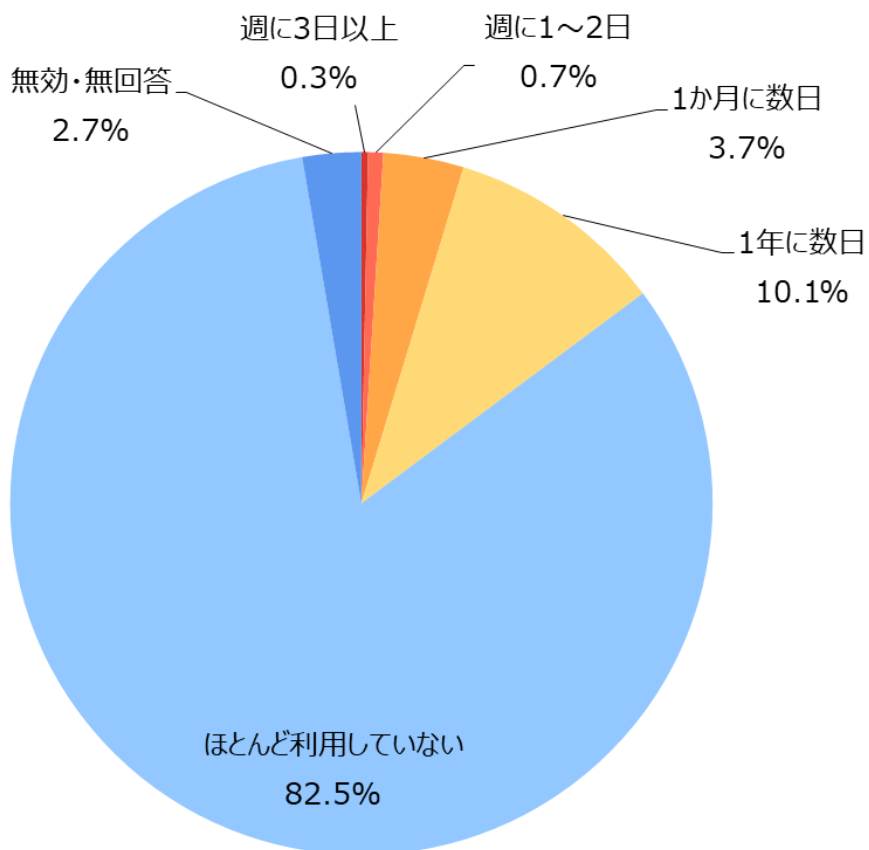
回答	回答数(人)
活用したい	114
制度内容が変われば活用したい	51
活用しない	70
わからない	55
無効・無回答	7
計	297

どのように変われば活用したいですか(主な内容)

- ・タクシー券を利用できる業者を増やす。
- ・タクシー券をもっと安くする。タクシー料金を定額にする。

問3 タクシー以外の公共交通機関の利用頻度について

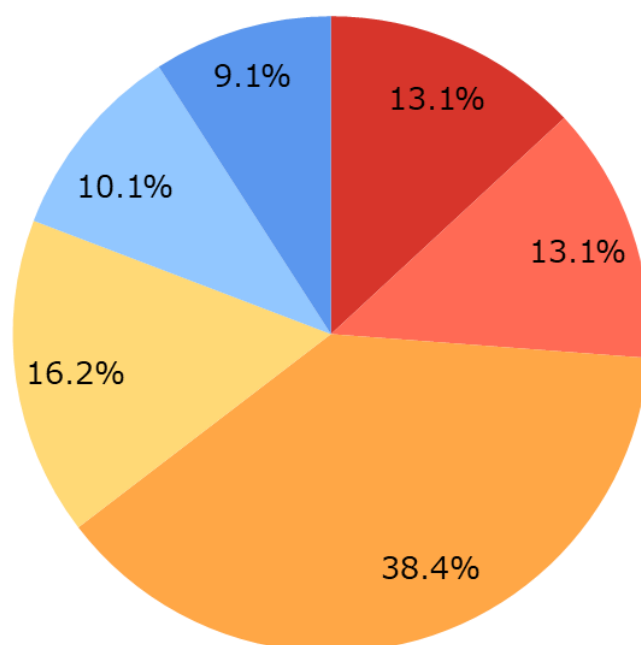
タクシー以外の公共交通機関の利用頻度については、「ほとんど利用していない」(82.5%)、「1年に数日」(10.1%)、「1か月に数日」(3.7%)の順で高くなっている。



回 答	回答数 (人)
週に3日以上	1
週に1～2日	2
1か月に数日	11
1年に数日	30
ほとんど利用していない	245
無効・無回答	8
計	297

問4 路線バスのあり方に対する考え方について

今後の路線バスのあり方に対する考え方は、「路線バスへの町の支援を止め、路線バスに代わる新たな公共交通手段を検討すべきである」(38.4%)、「路線バスを町民にもっと利用してもらえよう、町や県が取組や啓発活動を推進すべきである」(16.2%)、「町外への交通手段として重要であるため、町の負担が増加しても路線バスを維持すべきである」・「不便になるとしても路線バスの路線数や便数を減らし、町の負担を軽減すべきである」(13.1%)の順で高くなっている。



- 町外への交通手段として重要であるため、町の負担が増加しても路線バスを維持すべきである
- 不便になるとしても路線バスの路線数や便数を減らし、町の負担を軽減すべきである
- 路線バスへの町の支援を止め、路線バスに代わる新たな公共交通手段を検討すべきである
- 路線バスを町民にもっと利用してもらえよう、町や県が取組や啓発活動を推進すべきである
- その他
- 無効・無回答

回 答	回答数 (人)
町外への交通手段として重要であるため、 町の負担が増加しても路線バスを維持すべきである	39
不便になるとしても路線バスの路線数や便数を減らし、 町の負担を軽減すべきである	39
路線バスへの町の支援を止め、 路線バスに代わる新たな公共交通手段を検討すべきである	114
路線バスを町民にもっと利用してもらえよう、 町や県が取組や啓発活動を推進すべきである	48
その他	30
無効・無回答	27
計	297

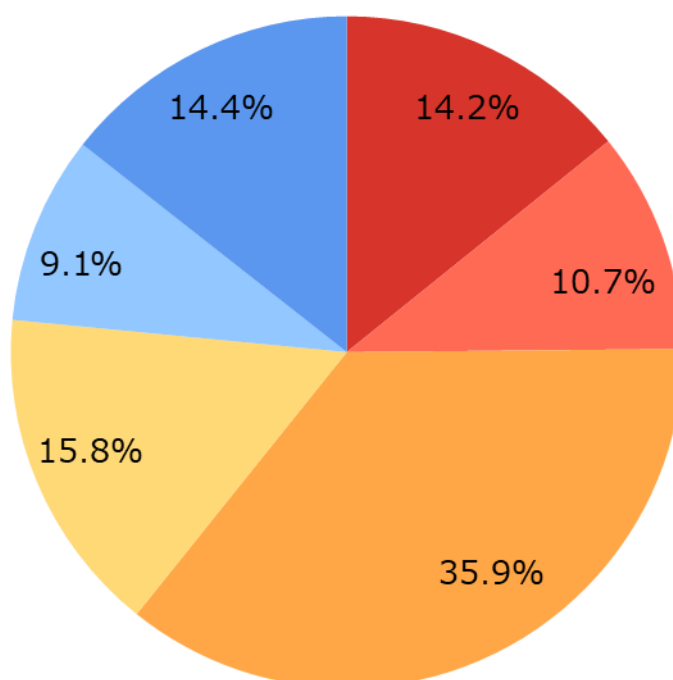
その他の主な内容

- ・朝夕のラッシュ時以外は、小型車にしていったらどうか。
- ・小型の町営コミュニティバスを運行する。
- ・路線バスも減便、路線変更などにより不便となり、そうかといってコミュニティバスでは町外に行く事もできず。免許返納となったときは、大変深刻な問題となる事はあきらか。町の負担も無限大とはいかず、最適な回答をすることができない。

3 参考

事業対象者の「路線バスのあり方に対する考え方について」の回答集計

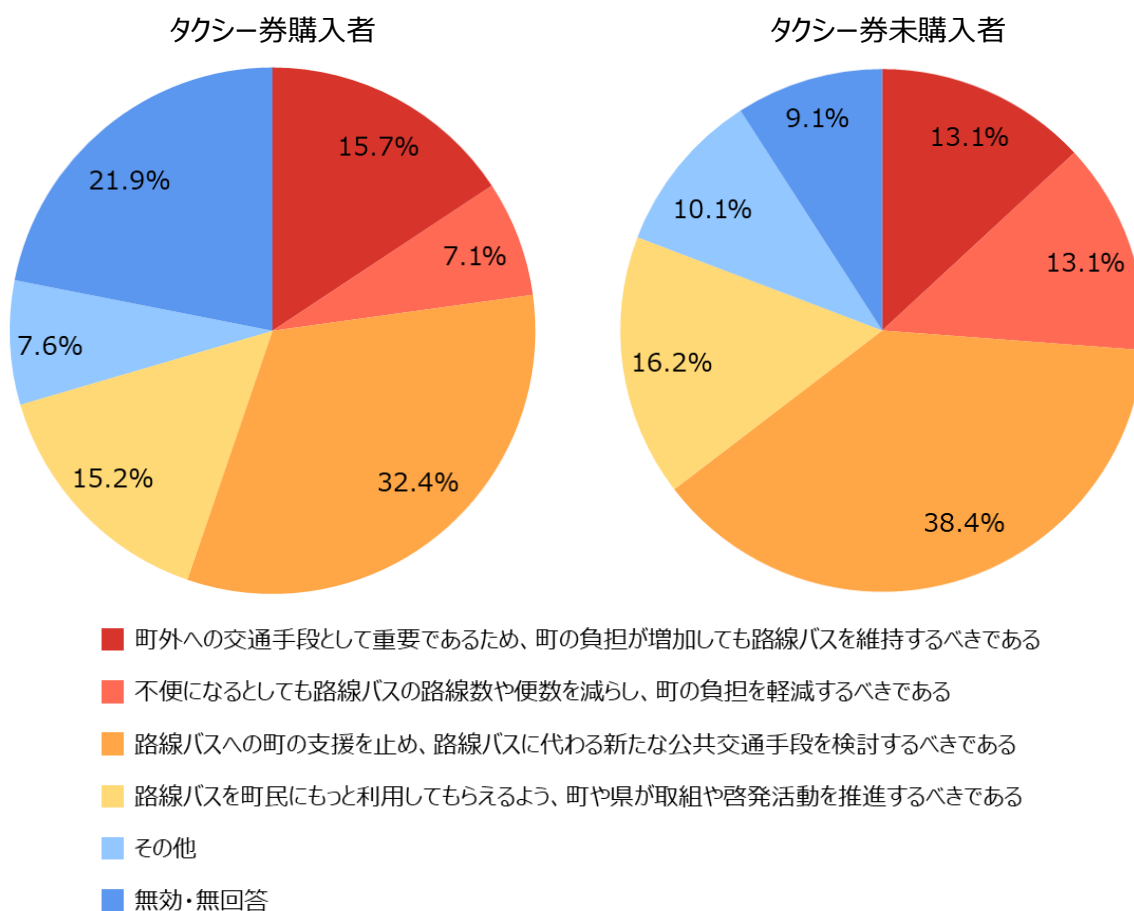
今後の路線バスのあり方に対する考え方は、「路線バスへの町の支援を止め、路線バスに代わる新たな公共交通手段を検討すべきである」（35.9%）、「路線バスを町民にもっと利用してもらえるよう、町や県が取組や啓発活動を推進すべきである」（15.8%）、「無効・無回答」（14.4%）、「町外への交通手段として重要であるため、町の負担が増加しても路線バスを維持すべきである」（14.2%）の順で高くなっている。



- 町外への交通手段として重要であるため、町の負担が増加しても路線バスを維持すべきである
- 不便になるとしても路線バスの路線数や便数を減らし、町の負担を軽減すべきである
- 路線バスへの町の支援を止め、路線バスに代わる新たな公共交通手段を検討すべきである
- 路線バスを町民にもっと利用してもらえるよう、町や県が取組や啓発活動を推進すべきである
- その他
- 無効・無回答

回 答	回答数 (人)
町外への交通手段として重要であるため、 町の負担が増加しても路線バスを維持するべきである	72
不便になるとしても路線バスの路線数や便数を減らし、 町の負担を軽減するべきである	54
路線バスへの町の支援を止め、 路線バスに代わる新たな公共交通手段を検討するべきである	182
路線バスを町民にもっと利用してもらえよう、 町や県が取組や啓発活動を推進するべきである	80
その他	46
無効・無回答	73
計	507

事業活用状況別の「路線バスのあり方に対する考え方について」 <再掲>



藍住町ノリ乗りタクシー券事業に関するアンケート調査票（購入者向け）【オモテ面】

問1 ノリ乗りタクシー券（以下「タクシー券」といいます。）は3冊まで購入できますが、購入できる冊数についてどう思いますか。

1. ちょうどよい
2. 少ない（具体的に：全部で 冊くらい購入したい）

問2 タクシー券の購入によって外出は増えましたか。

1. 増えた
2. 変わらない

問3 タクシー券の購入によって、タクシー以外の公共交通機関（バス、汽車など）を利用する機会は増えましたか。当てはまるものを1つだけ選択してください。

1. 普段から公共交通機関を利用しており、タクシー券の購入によって利用機会はさらに増えた又は変わらなかった
2. これまでも地域公共交通機関を利用していたが、タクシー券の購入によって利用する機会が減った
3. 普段は公共交通機関をほとんど利用していなかったが、タクシー券の購入によって利用機会が増えた
4. 普段から公共交通機関をほとんど利用しておらず、タクシー券を購入しても変わらなかった

問4 タクシー券事業の満足度について、最も当てはまるものを1つだけ選択してください。

1. 満足 2. やや満足 3. どちらでもない
4. やや不満 5. 不満

（その理由を教えてください。）

ウラ面もお答えください

藍住町ノリ乗りタクシー券事業に関するアンケート調査票（購入者向け）【ウラ面】

問5 路線バスについて、お伺いします。

藍住町では現在、5路線の路線バスが運行していますが、いずれも利用者数が低迷し、赤字路線となっています。町では、これらの路線を維持するため、運行会社の(株)徳島バスに対し、他の関係市町及び徳島県とともに補助金を交付しています。

これまで町は年間数百万円の補助金を交付してきましたが、新型コロナウイルス感染症の影響や人件費・燃料費等の高騰により、路線バスの赤字額は増加傾向にあり、町の補助金額も年々増加しています。

赤字額抑制のため、路線の変更（廃止）や減便などを進めてきましたが、これらの施策によって利便性が低下し、さらに利用者が減少するという悪循環に陥っています。バス利用者の増加が見込めない場合、最悪の事態として、町による路線バス運行支援が困難となり、近い将来、町内を通行する路線バスが廃線となる可能性も考えられます。

このような背景の中、今後の路線バスのあり方について、あなたの考えに最も近いものを次の中から1つだけ選択してください。

1. 町外への交通手段として重要であるため、町の負担が増加しても路線バスを維持するべきである
2. 不便になるとしても路線バスの路線数や便数を減らし、町の負担を軽減するべきである
3. 路線バスへの町の支援を止め、路線バスに代わる新たな公共交通手段を検討するべきである
4. 路線バスを町民にもっと利用してもらえよう、町や県が取組や啓発活動を推進するべきである
5. その他

具体的に

以上でアンケートは終了です。ご協力ありがとうございました。
この調査票を同封の返信用封筒に入れて、12月20日までにご投函ください。

オモテ面もお答えください

藍住町ノリ乗りタクシー券事業に関するアンケート調査票（未購入者向け）【オモテ面】

問1 ノリ乗りタクシー券（以下「タクシー券」といいます。）を購入していない理由について、次のうち最も当てはまるものを1つだけ選択してください

1. タクシーに乗る必要がないから	}
例：自分で運転するから 家族等にらせてもらうから など	
2. タクシー券を購入しなければならないから	}
例：タクシー券を買いに行けないから 購入にお金が必要だから など	
3. タクシー券を利用できるタクシー業者が少ないから	}
例：町外のタクシー業者ではタクシー券が使えないから など	
4. その他	}
具体的に：	

問2 今後、タクシー券事業を活用したいと思いますか。次のうち最も当てはまるものを1つだけ選択してください。

※車を運転される方は、運転免許証の返納等によりご自身の交通手段がなくなった場合を想像してお答えください。

1. 活用したい	}
2. 制度内容が変われば活用したい	
どのようになれば活用したいですか。	
3. 活用しない	}
4. わからない	

問3 タクシー以外の公共交通機関（バス、汽車など）はどれくらい利用していますか。当てはまるものを1つだけ選択してください。

1. 週に3日以上	2. 週に1～2日	3. 1か月に数日
4. 1年に数日	5. ほとんど利用していない	

ウラ面もお答えください

藍住町ノリ乗りタクシー券事業に関するアンケート調査票（未購入者向け）【ウラ面】

問4 路線バスについて、お伺いします。

藍住町では現在、5路線の路線バスが運行していますが、いずれも利用者数が低迷し、赤字路線となっています。町では、これらの路線を維持するため、運行会社の(株)徳島バスに対し、他の関係市町及び徳島県とともに補助金を交付しています。

これまで町は年間数百万円の補助金を交付してきましたが、新型コロナウイルス感染症の影響や人件費・燃料費等の高騰により、路線バスの赤字額は増加傾向にあり、町の補助金額も年々増加しています。

赤字額抑制のため、路線の変更（廃止）や減便などを進めてきましたが、これらの施策によって利便性が低下し、さらに利用者が減少するという悪循環に陥っています。バス利用者の増加が見込めない場合、最悪の事態として、町による路線バス運行支援が困難となり、近い将来、町内を通行する路線バスが廃線となる可能性も考えられます。

このような背景の中、今後の路線バスのあり方について、あなたの考えに最も近いものを次の中から1つだけ選択してください。

1. 町外への交通手段として重要であるため、町の負担が増加しても路線バスを維持するべきである
2. 不便になるとしても路線バスの路線数や便数を減らし、町の負担を軽減するべきである
3. 路線バスへの町の支援を止め、路線バスに代わる新たな公共交通手段を検討するべきである
4. 路線バスを町民にもっと利用してもらえよう、町や県が取組や啓発活動を推進するべきである
5. その他

（具体的に

以上でアンケートは終了です。ご協力ありがとうございました。
この調査票を同封の返信用封筒に入れて、12月20日までにご投函ください。

オモテ面もお答えください